

3-1. 株式会社別海町観光開発公社

野付半島ネイチャーセンター（北海道野付郡別海町）

(1) 地域の概要

【人口】約 1500 人

【地勢】

北海道東部、根室管内の中央に位置し、大きさは東西に市に 61km、南北に 44km、北方領土の国後島までは最短 16km。



【面積】

1,320k m²。

【気候、自然】

夏の平均気温 18℃。北海道でも冷涼な地域。夏期は霧も多い。

降雪は比較的少ない。冬期、朝晩は-15℃にもなり、日中でも 0℃を越えない真冬が続く。

内陸部は北海道らしい広大な牧草地が広がる。海岸部の野付湾や風蓮湖周辺では森林、草地、塩湿地、湿地、干潟と多様な環境を併せ持ち、野生動植物の生息地としてはもちろん、渡り鳥の中継地としても重要となっている。

【歴史】

- ・マンモスの歯の化石
- ・きつもん擦文・オホーツク文化
- ・アイヌ文化
- ・江戸時代の通行屋、にしん鱈漁番屋
- ・明治 漁獲を利用した缶詰所
- ・おくゆきうす奥行臼駅通所（町指定文化財、北海道指定文化財）

【観光】

酪農（生乳生産量日本一、牛の飼育頭数）

漁業（サケ、コマイ、アサリ、ホッキ、ホタテ、北海しまえび）

日本最大の砂嘴・野付半島
原生花園（野付半島、風蓮湖）
ゴマフアザラシ（野付湾では夏期に見られる）
ラムサール条約登録湿地（野付半島・野付湾、風蓮湖）
野付風蓮道立自然公園、
北海道遺産（野付湾・打瀬舟）
温泉

【地域資源の概要】

野付半島

根室半島と知床半島の上に位置し、北方領土の国後島までは最短距離の 16km。全長約 26km。日本最大の砂嘴。北からの海流によって砂が運ばれ、少しずつ堆積してできた半島で、付根の形成は 3,000 年前と言われている。中央部の森には擦文時代の竪穴式住居・チャシ跡、先端部には江戸時代の通行屋遺跡など人々の暮らした跡ものこる半島。森林、草地、湿地、塩湿地、干潟など多様な自然環境が揃っており、道東らしい広大な自然が楽しめる。バードウォッチングポイントとしても人気で、230 種を超える野鳥が観察されている。タンチョウ、オジロワシ、オオワシは有名であり、人気も高い。渡り鳥の中継地としても重要で多い時期には約 20,000 羽の渡り鳥が羽を休めて行くといわれている。ラムサール条約にも登録された。5 月下～10 月にかけては原生花園で様々な花が見られる。クロユリ、センダイハギ、エゾカンゾウ、ハマナス、ノハナショウブ、ウラギク、アッケシソウの群落が見事。

漁業も盛んで、アサリ、ツブ貝、ホタテ、ホッキ貝、サケ・マス、コマイなどが獲れる。特に野付湾で獲れる北海しまえびは有名な特産品。初夏と秋の決められた期間のみ、北海道遺産である打瀬舟で漁が行われる。

(2) アドバイザー派遣申請の背景

1) アドバイザー派遣申請の背景

野付半島はいままで「トドワラ」という枯木が林立する景勝地で売ってきたが、近年自然現象により衰退が激しくなっている。また、エゾシカによる被害も深刻で、花が少なくなってきた。年間 3000 人近い観光客をガイドしているが、このままの状態を維持することは困難と思われ、「トドワラ」に代わる新たな資源を開発して集客しなければという思いがあった。

2) これまでの取組

これまで年間 3000 名近いお客様のガイドを行ってきたが、目玉商品である「トドワラ」の衰退が著しく、これに代わる資源の発掘、商品化が喫緊の課題と考えていた。

(3) アドバイザー派遣の概要

日 時	◆ 1回目：平成 26 年 10 月 28 日（水）～29 日（金） ◆ 2回目：平成 27 年 2 月 6 日（金）
場 所	北海道野付郡別海町
ア ド バ イ ザ ー	株式会社ピッキオ 代表取締役 楠部 真也 氏
参 加 者	◆ 1回目：別海町役場、別海町観光協会、野付半島ネイチャーセンター、別海町観光船、野付半島ネイチャークラブ 合計 10 名 ◆ 2回目：別海町役場、別海町観光協会、野付半島ネイチャーセンター、野付半島ネイチャークラブ 合計 7 名
スケジュール・方法	◆ 1回目 【1日目】 ・視察：観光船、トドワラ、遊歩道、半島先端部 【2日目】 ・視察：伝馬船、オンニクルの入江 ・話し合い ◆ 2回目 ・視察：オンニクルの森（スノーシュー散策） ・話し合い

(4) アドバイスの内容

1) 1回目派遣

場所	視察内容
観光船	アザラシ、半島遠景、国後島
トドワラ	トドワラの枯木群、シカ食害、木道
遊歩道	水鳥、山並み、景色
伝馬船	野付湾内
オンニクルの森	散策道、遺跡、枯木群
ナラワラ	枯木群

①観光資源について

- ・資源は充分すぎるほどある
- ・トドワラの衰退を除いても、充分感動できる景色がある

②プログラムの作り方

- ・他施設の真似をする
- ・たくさん作ってたくさん失敗する

③ガイドの質の向上

- ・アンケートの実施（返送してもらうアンケート）
- ・アンケート結果は評価に反映

④売り方

- ・資源はあるので、どうやって売っていくかが最重要課題
- ・プログラムより広報が大事
- ・原稿料を払ってでも雑誌に記事を載せてもらう（るるぶ、まっぷる、ANAの機内誌など）
- ・宿泊施設との連携がカギ。どこと連携するのか？（根室、標津、羅臼？）
- ・誰かが儲かる仕組みを作ると連鎖していく
- ・誰に売りたいのか？対象をはっきりさせる
- ・資源とターゲットをしっかりと

⑤インバウンド

- ・アジアより欧米を狙え（アジアから集客した結果、国内旅行者が激減したところも）
- ・欧米人は長期滞在型、資金も豊富
- ・欧米人は野鳥、動物が見られるならそれに見合う対価は支払う
- ・近隣まで欧米人旅行者は来ているので、ここにどうやって引っ張るか？
- ・外国人への広報（ロンリープラネット、ナショナルジオグラフィックなど）

⑥情報共有

- ・ネイチャーセンター、役場、観光協会との情報共有ができていない（特にメディア出演に対して）
- ・客層のリサーチ、ガイド数、満足度、入り込み数、売上げなど

2) 2回目派遣

場所	視察内容
オンニクルの森	散策道、遺跡、枯木群
先端部	ワシ類

- ・人との交流も資源（地元ならではの物、食べ方）
- ・素材は人を呼ぶものと来てから体験するものを把握する
- ・知床の入り口としての野付
- ・ツアー参加に条件をつける（ターゲット以外は排除する）
- ・リピーターのためのプログラム。何度か来る内にその時々良さが分かる。シーズンオフに呼び込む。レベルの高い特別な体験。

(5) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

①エコツーリズム、又は、地域資源について理解が得られた

- ・自分たちが思っている以上の資源があることが分かった。
- ・衰退し目玉にならないと思っていたトドワラの景色もまだまだ感動を与えられる景色である。
- ・景色と生き物の両方がある地域はなかなか無い。さらに野生動物が近くでリアルな生態が見られる。
- ・人工物が一切視界に入らない広大な景色はそうそう無く、感動が大きい。
- ・整備された道が必ずしも必要では無く、されていないからこそ楽しめる事もある。
- ・穏やかな海に恵まれている。観光船の出航率も良く、カヌーに向いている。

②今まで課題としていたことがより明確になった

- ・トドワラの衰退ばかり心配していたが、それを上回る資源があり、それで充分やっていけること、そしてその売り方のほうが課題だということが分かった。

③今までの課題に対して取組方が分かった

今ある資源でプログラムを充実させる。広報の仕方を考える。

④今までとは別の課題が明らかになった

対象を誰に、どこと連携し、どうやって売るのがか。インバウンドも視野に。

2) 今後期待される効果

プログラムのラインナップと近隣との連携により、集客数の増加。外国人観光客の増加。

3) 今後の取組

まずは別海町観光開発公社、別海町役場観光課、別海町観光協会、ネイチャークラブで話し合いを設け、別海町として観光の方向性をはっきりさせ、やるべきことを整理し、それぞれの役割を明確にしていきたい。

- ・利用客のリサーチ（客層、どこから来たか、どこに泊まるか、何を求めているか、満足度）→個人ガイド利用客への細かいアンケートの実施。
- ・メディア掲載の記録・情報収集、そしてそれを共有する。
- ・近隣ガイドツアーの分析、他地域でのガイドツアーの視察。
- ・現在のプログラム分析（対象別に分類、他地域のガイドツアーと比較）。
- ・宿泊施設への情報提供・周知。→プログラムの一覧・チラシなどの作成。
- ・対象別に宣伝内容・方法を変化させる。

(6) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

①外国人の動向や嗜好

「外国人」でも地域により求めるもの、滞在方が違うこと。アジア人は森羅万象・景色を好む。欧米人は野生動物を好み、長期滞在型、ロングトレイルを好む。野付半島は欧米人向きである。また欧米人を呼び込むことはブランド化へとつながる。

②他地域の事例

田野畑村のサップ船。(野付湾での伝馬船に似る)

アドバイザーの勤める軽井沢でのガイドプログラム。(ムササビウォッチング、スターウォッチング、レンタル品、体制、大人向け・ファミリー向けの内容とガイド)

③広報の仕方

情報源はガイドブックと口コミが多い。広報は途切れないよう、手元に残る雑誌で。対象を考えてラインナップを宣伝する。

④プログラムの作り方

まずは他の地域で行っているものを真似する。酪農体験などは雨の日対策になる。対象を考えてプログラムを作る。

2) 感想

野付の資源に対して、自分たちが感じていることと、外部の人が感じることはかなりの違いがあることが分かりました。ネガティブなことばかり考えていましたが、資源は今あるもので充分であり、力を入れるべきところが違っていたということが分かりました。それから他地域のことをもっと知るといことも私たちの課題だと思いました。

いただいた多くの助言を無駄にしないよう、ひとつでもカタチにしていきたいと思えます。2日間、大変有意義な時間を持つことが出来ました。どうもありがとうございました。

【記録写真】

< 1回目派遣の様子 >



トドワラ木道を視察。
枯木群が年々少なくなり観光の目玉にならないと思っていたが、まだまだ十分感動できる景色である。木道も幅が狭く、手すりもないので危険に感じていたが、安全が確保できていれば冒険心も味わえるので、がっちりとした整備が絶対では無い。日韓人には好みの景色である。

半島先端方面の視察。
ガイド付きでしか行けないという特別感を付けると良い。サイクリングにも良い。欧米人は数十キロ歩くことも苦ではなく、歩きながら生き物も見られる好条件の場所。外国人が日本で見たい生き物であるオオハクチョウやエゾシカが数多く、近くで見られる。



新たなガイドルートとして検討中のオンニクルの森を視察。
今回は伝馬船で上陸した。ガイド利用での上陸ではいくつか条件があるが、よくよく調べればクリアできるはず。風が強い日であったが問題なく出航できたのは野付湾が非常に穏やかなため。穏やかな海が常に隣接しているのはこの強みである。遊歩道などの整備された道・決められた道でなく自由にあるけるといのは魅力。人工物が一切見えない景色は貴重。牡鹿が雌鹿を追う光景などリアルな生態が見られる。森林内は安全管理（落枝やスズメバチ）をしっかりと行い、情報を共有していくことが重要である。



話し合い。

資源は十分過ぎる。重要なのは対象を絞ったラインナップ、宣伝、売り方である。利用客のリサーチ、現状の分析、情報収集と共有が不足していると感じた。

< 2回目派遣の様子 >



新たなガイドルートとして検討中のオンニクルの森を視察。

今回はスノーシューを履いて散策した。ネイチャーオフィスで行っているスノーシュー体験の内容などを教えていただいた。



話し合い。

(7) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

株式会社ピッキオ 楠部 真也 氏

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組

北海道野付半島は北海道の道東に位置した海沿いの町です。この町は農業、漁業ともに盛んであり、北海シマエビなどの特産品があります。

野付半島周辺ではトドワラ、ナラワラ、原生花園などが以前より有名で、打瀬舟などの古い漁法も残っており、オオワシ、オジロワシ、ゴマフアザラシなども比較的容易に見え、自然資源としては申し分の無い地域であると言えます。

エコツーリズムについては野付半島ネイチャーセンター<http://notsuke.jp/>を中心にグリーンシーズンにツアーを開催しています。

②課題

野付半島のエコツーリズムの最大の課題は集客であろうと思われます。自然資源は全く申し分なく、ツアーに参加さえしてもらえれば一定の満足度を得られることは間違いありませんが、残念ながら集客に苦勞する状況にあります。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

①魅力を感じた地域資源

前述のとおり、野付半島の自然資源に関しては非常に魅力的で、“どれ”と特定できるものではありません。

②上記地域資源に魅力を感じた理由

野付半島に生息する野生動植物はどれも魅力的であるだけでなく、その地理上の特性（砂の半島で、丘陵地がない）から、非常に見やすいという利点もあります。伝馬船で行く野付半島は非常に魅力的で、日本有数ではないかと思いました。

3) アドバイス（講義等）の概要

自然資源としては全く問題なくツアーの実施は可能です。ツアーは2種類体験しましたが、何れも魅力的でした。課題は集客にありますので、必要なことを議論しました。アドバイスとして、

- ① 広報戦略
- ② 宿泊施設との連携
- ③ 他地域との連携

の3点をアドバイスとして伝えました。

まず、魅力的な野付半島の自然を一般観光客に認知してもらう必要があります、その為には行政を巻き込んでの“広報”を通じて、道内外のメディアに野付半島の魅力を発信してもらうよう取り組むべきではないかと伝えました。続いて、別海町内に

ある宿泊施設と積極的に協力体制を構築することで、双方にとって集客につなげられる可能性を伝えています。最後に、観光客は道東を周遊する傾向がある為、別海町外とも広域連携を図れないかとも提案しました。別海町付近には、一大観光地である知床、宿泊施設が多い川湯温泉、都市としては根室があり、これらとの関係をより強固にすることで、野付半島のエコツアーの集客につなげられる可能性が広がると考えました。

また、アドバイスというほどではないものの、野付半島は日本人だけでなく、海外観光客に対しても魅力的に映ると思われましたので、その可能性についても言及しました。実際、近隣の鶴居村や根室市は外国人バードウォッチャーを集客していますので、野付半島でもそれは可能ではないかと思われま

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

①全体構想への取組状況について

別海町では、エコツーリズムに取り組んではいます。一方で、全体構想に対しては取り組んでいない状況です。

②全体構想への意向について

積極的な意向があるとは言えないと思われま

③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

本来、別海町は全体構想策定に動き出していきたい地域です。しかし、観光産業があまり盛んでない町ですのでまずは、野付半島でエコツーリズムを通じて観光消費が増大するという実例を作ることが必要ではないかと思われま

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

一泊二日で訪問させていただきました。繰り返しになりますが、野付半島はコンパクトではありますが、世界自然遺産の知床にも匹敵する非常に魅力的な自然資源です。このような光景を日本で見ることはなかなかできないと思いま

それだけに、今後の野付半島のエコツーリズムについては期待と不安、両方をもってみえています。現状はなかなか集客に結び付いていない状況ですが、試行錯誤を繰り返しながら何とか生業としてガイド業を定着させ、地域振興に役立てていただければと思いま

株式会社知床ネイチャーオフィス 代表取締役 松田 光輝 氏

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組

野付半島「トドワラ（原生花園）」をフィールドとして、株式会社別海町観光開発公社に所属するガイドを中心にエコツアーが実施されている。エコツアーは主に夏に行われ塩湿地や海岸草原に咲く花のガイドングが中心となっている。

②課題

観光客が夏季に集中しているため、通年を通しての常駐ガイドが少なく、繁忙期はアルバイトガイドで対応している。質の向上や新規プログラムの開発、受入れ体制等に苦慮しているようである。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

①魅力を感じた地域資源

- ア. タンチョウ、ゴマフアザラシ、オオワシ、オジロワシ等の野生動物。
- イ. 塩湿地や海岸草原の環境及び海浜植物。
- ウ. 砂嘴が織りなす独特の景観。

②上記地域資源に魅力を感じた理由

- ア. タンチョウの繁殖地は細長い砂嘴にあるため、採餌行動などが比較的至近距離で見られる他、冬季のオオワシ・オジロワシは氷下漁のおこぼれの魚を狙っているため、人間に対する警戒心が非常に弱く、写真撮影なども比較的容易である。このように季節によって、タンチョウ、オオワシ、オジロワシなどの世界的に見ても一級の野生動物資源が観察しやすい条件が整っている。また、夏から秋にかけては、観光船からゴマフアザラシが高確率で見られ、尚且つ干潮時に干潟で休憩する姿は他地域ではなかなか見られない光景である。
- イ. 北海道には海岸草原や湿地の植物を観察できる原生花園が幾つもあるが、塩湿地の植物が観察しやすい場所は限られている。塩湿地から海浜性、草原性の多様な環境があり、植物の種類が多いのも魅力の一つだ。
- ウ. 日本最大の砂嘴が織りなす風景は、他地域で見られない独特の景観を作り出している。成長と浸食が同時進行で進む砂嘴は、景観や環境に常に変化をもたらすのも魅力の一つと考えられる。また、トンボロ（陸繋砂州）などがある地域等とジオツーリズムを切り口とした新たな連携も可能である。

3) アドバイス（講義等）の概要

- ①資源性は高く、海外からの観光客にも魅力的な地域になるはずである。優位性のある資源を把握し、それに合わせたターゲットにPRしていくことが有効だ。

- ②資源を効果的に使うためには、新たなコースづくりや整備が必要となる。民間事業者だけでは予算や許認可の問題で限界があり、各行政機関との連携が必要である。
- ③タンチョウやオオワシ、オジロワシなど観光資源として魅力のある野生動物を持続的に活用するためにはルール作りが必要となる。
- ④道東方面には原生花園が多く、他の原生花園との違いをPRできなければ集客することは難しい。特に人気のある原生花園はオホーツク海側に集中しており、根室方面はマイナーである。しかし、オホーツク海側の原生花園とは開花時期が異なり、棲み分けや連携ができる。
- ⑤野付半島「トドワラ」の知名度はあまり高くはないことと、別海町の宿泊キャンプ及び選択肢が非常に限られている。「トドワラ」よりも知名度の高い知床や阿寒との連携、宿泊施設としては近隣の市町村との連携が重要となる。
- ⑥一年を通してガイド業で生計を立てられるようになるためには、単価の高い商品開発とシーズンオフ（冬季）の商品開発及び誘客が必要となる。

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

①全体構想への取組状況について

全体構想について具体的な検討などはされていない。

②全体構想への意向について

関心はあるが、メリット等について地域内での検討が必要。

③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

別海町の産業構造で観光業（経済効果）の占める割合はあまり高くなく、観光に対する地元住民の関心は低いと思われるので、観光に対する関心をどう高められるかがポイントになる。そのためには別海町の観光資源の可能性について、地元住民に周知しなければならない。まずは、エコツアーのメニュー数と参加者を増やすことが一番の近道だと考えられる。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

自然環境の資源性は高い地域で、エコツアーガイドが生計を立てることができる地域だと思います。ただし、農業・漁業が中心の町で、地域の協力を得られ難いかもしれませんが、確実に実績を積んで行けば必ず注目を集め、理解者や協力者が増えるはずです。まずは、お客様一人一人に満足度の高いサービスを提供して、評価を得てください。お客様の評価が高ければ、口コミなどで認知度が上がり集客に結びつきます。地道ではありますが、お客様のニーズに応えながら頑張ってください。